

## 肢体不自由教育部門の教育

教育目標	○健康で豊かな心と身体づくりを基盤として、専門機関等と連携し、学力や意思疎通する力の向上を図り、社会参加・自立に向けて、積極的に取り組む人間を育成する。	
特徴	○学校生活における基本は学級におくが、学習については児童・生徒の身体の状態や学習の課題に応じ、課題別の学習グループを編成して行う。 ○教員と学校介護職員が協働し、児童・生徒の教育活動や学校生活の充実を図る。 ○部門の教育を基盤に、学部の段階に応じた教育内容を組織するとともに、知的障害教育部門との交流を行う。	
重点	○児童・生徒の障害等に応じた指導（児童・生徒に応じた言語活動、読書活動） ○専門機関等と連携した質の高い教育 ○一人一人に応じた進路指導	
	基本方針	大切にすること
小学部	○学習や生活の基礎を築くために、個々に応じたきめ細かな指導を通し、集団に参加する力を育てるとともに、自己決定・自己選択のできる児童を育成する。	○基本的な生活リズムを確立し、継続して学校に通う（学習活動を行う）ことのできる健康な身体づくりを行う。 ○様々な体験的な活動を通して生活経験を豊かにし、日常生活に必要な力や基礎学力を身に付ける。 ○少人数の学習グループを編成し、一人一人の実態に応じた指導を行う。 ○人間関係を豊かにし、自ら関わることのできる力を育成する。 ○自分の気持ちや要求を表現することのできる力を育成する。 ○家庭との連携を密に図る。
中学部	○小学部の学習を基盤とし、一人一人が主体性を持ち、高等部進学やその先の自己の将来について、見通すことのできる生徒を育成する。	○生活リズムを整え、継続して学校に通う（学習活動を行う）ことのできる健康な身体と体力づくりを行う。 ○少人数の学習グループを編成し、一人一人の実態に応じた指導を行う。 ○生活経験を広げ、日常生活に必要な力や学力を身に付ける。 ○自分の気持ちや要求を表現することのできる力を養う。 ○自立と社会参加を促すため、人間関係を広げ、主体的に関わることのできる力を養う。 ○標準服を導入し、儀式等を中心に、鹿本学園の生徒としてTPOに応じた身だしなみができる力を育成する。 ○家庭との連携を密に図る。
高等部	○学校教育終了後を見据え、個々の課題を明らかにしながら、社会自立についての意識を深めるとともに、卒業後の豊かな生活に向けて、主体的に取り組むことのできる生徒を育成する。	○生活リズムを整え、継続して学校に通う（学習活動を行う）ことのできる健康な身体と体力を養う。 ○少人数の学習グループを編成し、一人一人の実態に応じた指導を行う。 ○生活経験を広げ、卒業後の社会自立・企業就労・大学進学等について必要な力や学力を身に付ける。 ○自分の気持ちや要求を表現することのできる力を身に付ける。 ○豊かな人間関係を広げ、自立と社会参加を促す教育活動を進める。 ○標準服を導入し、鹿本学園の生徒として、さらに社会の一員として、TPOに応じた身だしなみができる力や意識を養う。 ○家庭との連携を密に図る。